

認定介護福祉士の立場から LIFEをどう現場で活用していくか

社会福祉法人高生会

特別養護老人ホーム明日に架ける橋

鈴木 乃（認定介護福祉士）

自己紹介

- 平成9年 大学3年生の時、親に怒られ特別養護老人ホームにて夜勤のアルバイト開始
- 平成11年 そのまま、特別養護老人ホームに入職
- 平成15年 介護福祉士取得
- 平成18年 介護支援専門員取得
- 平成19年 民間の居宅支援事業所に転職
- 平成20年 介護老人保健施設に転職
- 平成24年 認定介護福祉士モデル研修受講
- 平成28年 日本社会事業大学専門職大学院修了
- 現 在 社会福祉法人にて特別養護老人ホームの新規開設に従事

「LIFE」や「新規加算取得」と聞くと…

介護現場ではマイナスイメージからスタートしてしまう場合が多いように感じる。

☹️「また面倒な仕事が増える」

☹️「新しいことを覚えるのは大変」

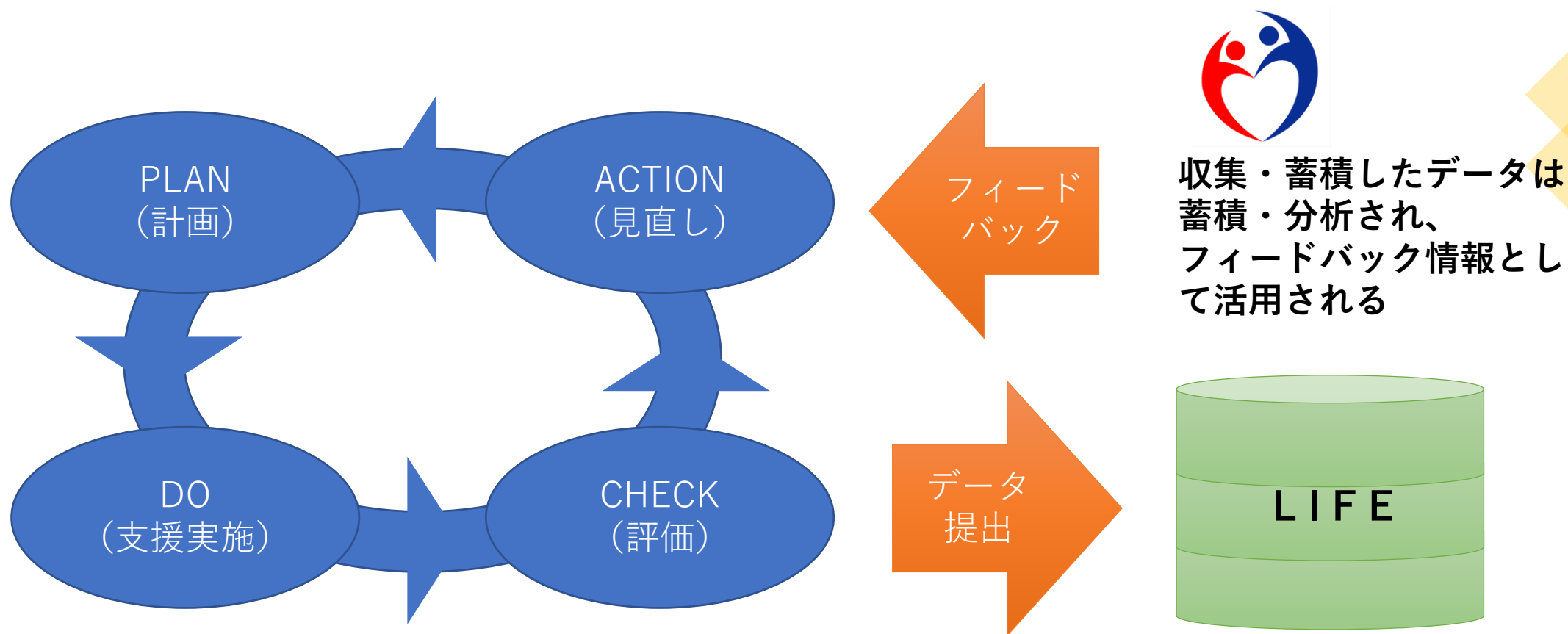
☹️「『加算』を取る為に、大量の書類を作らなければならない」
などなど。

プラス視点での活用が重要

「LIFE」を導入する意義を

- ご利用者の心身変化を「見える化」するツール
 - 「結果」を意識する支援への転換
 - チームを形成する際の、ひとつの「柱」
 - 介護リーダーを成長させるきっかけ
- として、介護スタッフに伝えていくことが重要。

ご利用者の心身変化を「見える化」するツールとして

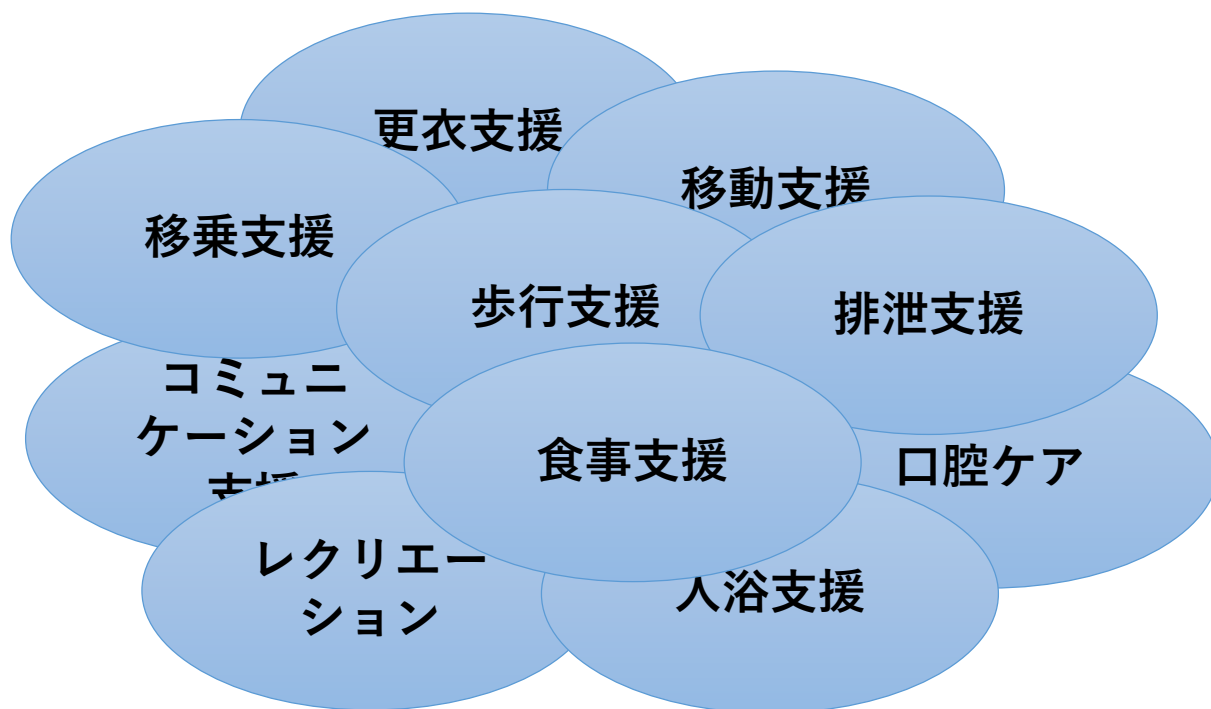


全国から集まるデータにより、「客観的な視点」に基づいた振り返りが可能となる。

出典：厚生労働省HP「科学的介護とL I F E」より

URL:<https://www.mhlw.go.jp/content/12301000/000949376.pdf>

「結果」を意識する支援への転換



ここに、専門的知見や
LIFEによってもたらされる
科学的根拠が必要

将来像を描く

目標・結果

日々、介護現場では様々な支援を実施している。
でも、どこかで

- ・トイレに行けないから
 - ・お風呂に自分で入ることができないから
 - ・食事が自分で食べられないから
- と「今」を補う支援になってませんか？

「今行っている支援が、
どこに向かっているのか」
考え、意識し支援することが重要

チームを形成する際の、ひとつの「柱」としての活用

LIFE導入により想定される事業所・施設内での動き

LIFEを導入し「良いケア」を明確に示していくことを法人・事業所として明言する

プロジェクトの発足

介護リーダーの役割の明確化

書式やツールの変更

会議体等、仕組みの変更

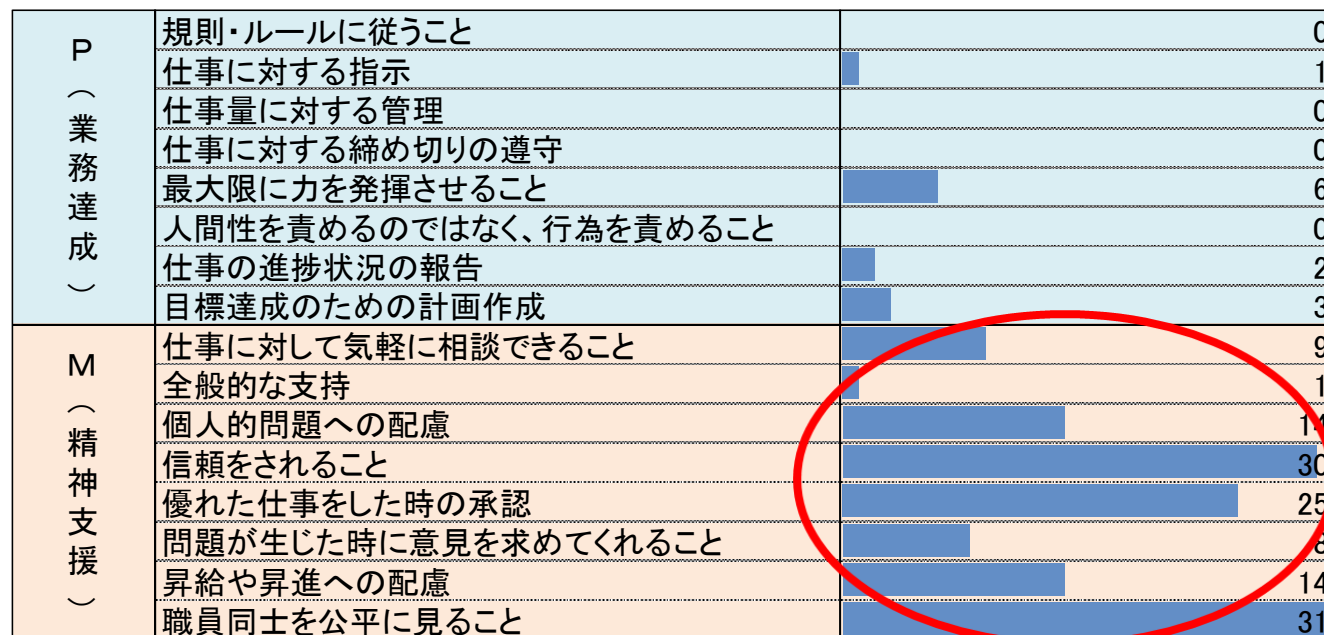
介護過程をより深化させるためのプロセス変更が行われることが期待される

介護リーダーを成長させるきっかけとして

精神的支え合いを重視されている職員関係において、多くの介護リーダーはメンバーの「精神的支援」に多くの労力を割いていると推測される。

鈴木が以前所属していた
自職場にて行ったアンケート調査

結果から、
精神的支援を求める声が多く、
業務達成に対する声が少なかった。



介護リーダーを成長させるきっかけとして

「精神的支援」が出来ていれば、「良いチーム形成」ができるのか？

大切なのは、介護リーダーが

- 介護実践の中で中心的役割を果たすこと
- 役割を果たすために、役割を明確にすること
- 「LIFE」をきっかけに、支援の成功体験を得ること
- 成功体験からモチベーション向上につなげること

が重要ではないかと考える。

終わりに

多くの介護職員は「支援」を一生懸命行っています。
しかし、その「支援」がどこを目指しているのか。
自分たちの手で、何を生み出しているのか。
見えていない中、「今」を一生懸命支援しているのでは、
ないでしょうか。

「LIFE」に取り組むことで、
『私たちの支援が、その方々の将来を支えている』
と実感できる支援となるよう願っております。

ご清聴ありがとうございました。